

顔ヲ指出云、駿馬之骨ヲバ不買ヤアリシト云云、燕王好馬 買骨事

〔千載和歌集十六〕僧都光覺維摩會の講師の請を申けるを、たびくもれにければ、法性寺入道前

太政大臣藤原忠通に、恨申けるを、えめちがはらと侍けれど、又その年ももれにければ、つかは

しける、

藤原基俊

契をきしませもが露を命にてあはれことしの秋もいぬめり

〔太平記十一〕金剛山寄手等被誅事附佐介貞俊事

佐介左京亮貞俊ハ、平氏ノ門葉タル上、武略才能共ニ兼タリシカバ、定テ一方ノ大將ヲモト、身ヲ

高ク思ケル處ニ、相模入道北條高時サマデノ賞翫モ無リケレバ、恨ヲ含ミ憤ヲ抱キナガラ、金剛山

ノ寄手ノ中ニゾ有ケル、略中サテモ關東ノ様、何トカ成ヌラント尋聞ニ、相模入道殿ヲ始トシテ、

一族以下一人モ不殘、皆被討給テ、妻子從類モ共ニ行方ヲ不知成ヌト聞ヘケレバ、今ハ誰ヲ憑ミ、

何ヲ可待世トモ不覺、略中貞俊又被召捕テゲリ、略中最新ノ十念勸ケル聖ニ付テ、年來身ヲ放タ

ザリケル腰ノ刀ヲ、預人ノ許ヨリ乞出シテ、故郷ノ妻子ノ許ヘゾ送ケル、聖是ヲ請取テ、其行末ヲ

可尋申ト、領狀シケレバ、貞俊無限喜テ、敷皮ノ上ニ居直テ、一首ノ歌ヲ詠ジ、十念高ラカニ唱テ、閑

ニ首ヲゾ打セケル、

皆人ノ世ニ有時ハ數ナラデ憂ニハモレヌ我身也ケリ

〔關八州古戰錄七〕太田三樂岩築城離散事附源五郎氏資戰死事

小田原ノ萬松軒法花ノ僧ヲ使价トシテ、岩築ノ城ヘ遣シ、太田三樂齋ヲ賺サレケルハ、略中嫡子

源五郎ヘ家督ヲ讓リテ、三樂ハ隱居アラレ、心安餘年ヲ送ラレンカ、然ラバ氏政ノ妹ヲ以テ、源五

郎ヘ娶セ、北條一家後楯ト成テ、永ク社稷ヲ保護セラレン様ニ執計フベキ條、枉テ此義ニ同心ア

ラルベシト、兩度ニ及ンデ、申送ラレケレバ、略中氏康ノ旨ニ應ズベキ由、返答ニ及ビケレバ、萬松